

親しく正しく和かに

当山先々代三吉日照上人の提唱による
当山スローガンです
揮毫＝大本山本興寺御開士大平日晋上人

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに
広くお読みいただければ幸いです。



No.63

令和8年1月1日発行



本覺山 妙壽寺 〈法華宗（本門流）〉
〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1
電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427
ホームページ <https://www.myojiyuji.or.jp>



永岡成美第一七〇回忌追善法要・茶会

10月12日、当山初めてとなる追善の茶会が開かれました。一昨年12月に刊行された、宮武慶之先生著『酒井抱一のバトロン・永岡成美』の出版記念であり、成美の170回忌を期してのことです。

午前10時に本堂にて成美・蓮淨院成美日重居士の第一七〇回忌を当住上人導師にて三十余名が参列、焼香の初めには、成美の末裔である永岡俊彦氏ご焼香 参列者全員が焼香いたしました。写真上

11時より二席の薄茶席の正客には業縁の戸田宗寛先生、次席の正客には同著の巻頭言をお書きいただいた池田彰孝（宗孝）様、当住上人所属の裏千家東京第六東支部増田宗房先生はじめ幹事先生方、東京青年会議所悠々会（茶道部）皆様、金沢より本因寺相沢一龍上人、同寺お檀家で裏千家師範の高来宗吾先生が連客として同席されま



永岡成美 第一七〇回忌追善法要・茶会

した。写真上

また、展覧席では宮武先生の解説より、当山格陵の宗祖御真筆（紅御本尊と日朗・日像聖人御本尊の三幅対と、先生ご持参の酒井抱一弟子池田孤郎お軸が展示されました。写真中右

12時からは、鍋島客殿にて点心席が設けられ、当住上人より此の度の法要、茶席主旨が話されました。

当山の大檀越であった永岡成美が活躍し、当山への多大な貢献がその著述により明らかになり、二百年前の当山の様子と共にその時代に当山を支えた歴代住職、檀信徒の姿を想い、一同 往時に思いを馳せることが出来ました。

*『酒井抱一のバトロン・永岡成美』をご希望の方は、当山までご連絡ください。

墓地清掃案内

墓地の清掃をご希望される場合は、
下記によりお受けいたします。

記

作業内容：①雑草除去
②掃き掃除

清掃費用：5,000 円

内容によりご相談お受けいたします

- ※ ご連絡いただき 2 週間位の内に作業となります。
- ※ お支払いは現金書留または来山時にお願いいたします。



令和八年年回表	
一周忌	令和七年
三回忌	令和六年
七回忌	令和二年
十三回忌	平成二十六年
十七回忌	平成二十二年
二十回忌	平成十六年
二十七回忌	平成十二年
三十三回忌	平成六年
三十七回忌	平成二年
四十二回忌	昭和五十九年
四十七回忌	昭和五十五年
五十回忌	昭和五十二年
百回忌	昭和二年

宗務院 DIARY

9/11, 10/7, 11/17 内局会議
12/2 内局会議引き継ぎ会
12/9 内局退任式

法要のご案内

2月3日(火) 節分会追儺式(豆まき)
3月20日(金・春分の日) 春彼岸中日法要
初 座：午前11時 第二座：午後2時 動物諸霊法要：正午
7月16日(木) 孟蘭盆会法要

猿江別院 御写経会

2月12日(木)
参加費：500円
※毎回、木曜日 13時～19時

新規墓所 ご案内

3尺×4尺＝6基
3尺×3尺＝6基
2尺×2尺＝8基
詳細は当山までお問い合わせください。

正隆会

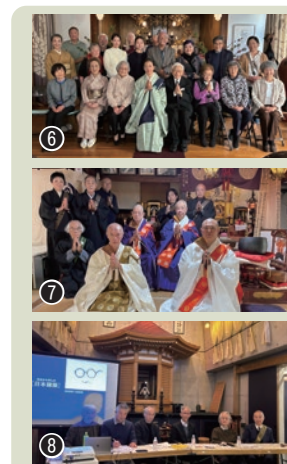
[SHORYU-kai]
午後2時開催

月例講 ご案内

1月10日(土)	初題目・勉強会「法華宗への誘い」拝読16
2月3日(火)	節分会・勉強会「法華宗への誘い」拝読17
3月14日(土)	勉強会「法華宗への誘い」拝読18
4月11日(土)	勉強会「法華宗への誘い」拝読19
5月1日(金)	猿江大祭・正隆会（企画中）
6月13日(土)	勉強会「法華宗への誘い」拝読20



- 8月30日 当住久美夫人祖母17回忌・叔母3回忌 法要 於駒込江岸寺
- 9月1日 関東大震災犠牲者慰霊法要 於両国・東京慰霊堂
- 9月2日 東京都仏教連合会会長懇話会 於芝とうふ屋うかい
- 9月3日 京都教学講習会（当住上人担当部長）於京都本能寺
- 9月5日 第47回全日本仏教徒会議大阪大会 於大阪日航ホテル
- 9月8日 教学研究所総会 棚経報告会
- 9月15日 法華宗主催静岡・身延団参 ①
- 9月17・18日 秋季彼岸会中日法要・総代会
- 9月23日 東京都宗教連盟理事会 於代々木新宗連会館
- 9月24日 淡交会東京第6東支部総会 於明治記念館
- 9月25日 烏山小学校3年生当山へ社会科見学（西澤旧職員説明）②
- 9月28日 今日庵東京道場・好日会
- 9月28日 桑港日蓮教団理事長ステイブス夫妻 理事宮崎女史来山
- 10月14日 全日本仏教婦人連盟大会 於東京プリンスホテル
- 10月21日 総代会 竹灯籠能 浅見慈一師「船弁慶」、落語 会・春風亭二之輔「ふく鍋」「茶の湯」③
- 10月25日 於当山本堂 仏教伝道教会設立60周年記念感謝会 於マンダリンオリエンタル東京
- 10月29日 法華宗宗務院役員沖縄研修旅行 各地慰霊碑・戦跡・慰霊祭参拝 ④

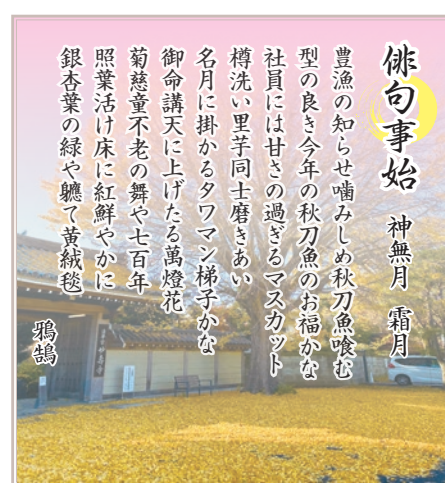


● 11月3日 日蓮教会御会式 桑港・日蓮教会 於彼岸会法要当住夫人 三吉妙真尼奉修 ⑥

● 11月23日 晴明庵御報恩会式 鶴沼・晴明庵 於お内仏御遷座供養 ⑦

● 11月29日 木まつり ⑧

- 11月3日 宗祖第74御遠忌御報恩会式（御会式）
- 11月7日 烏山北小学校2年生当山へ社会科見学
- 11月9日 第29回納骨堂建設委員会
- 11月10日 東京都仏教連合会理事会
- 11月14日 淡交会全国役員会 於京都ホテルオークラ
- 11月16日 東茶会・上田宗箇流掛釜 於東京美術倶楽部
- 11月17日 池上本門寺献茶式 北見宗幸先生添釜
- 11月18日 全日本仏教青年会来馬司龍理事長就任 理事會 於ホテルメトロポリタン ⑤
- 11月20日 全日本仏教会理事會
- 11月25日 於京都西本願寺講法會館 東京都宗教連盟研修會
- 11月25日 於代々木神社本庁 神奈川仏教青年會創立50周年記念大会 於横浜ベイホテル東急
- 11月27日 河口湖常任寺森日行上人第33回忌法要 鍋島客殿保存會
- 12月5日 婦人會總會 於日比谷松本楼
- 12月6日 第30回納骨堂建設委員会
- 12月7日 花崎玉女地唄舞の會 於鍋島客殿一階（左案内参照）
- 12月12日 東京都仏教連合會成道會 於朝日ホール
- 12月12日 東京ブディストクラブチャリティーのタベ 於帝國ホテル



江戸の狂歌師「宿屋飯盛」を先祖に

「天明狂歌ブームで活躍した狂歌四天王、「べらぼう」に登場」

内藤 慎一氏

内藤家・大内旅館と妙壽寺

住職 今日は、お忙しい中、当山までお越しいただきまして、ありがとうございます。
今、放映中のNHK大河ドラマ「べらぼう」に登場する内藤慎一さんのご先祖、石川雅望さんのお話等々をお伺いしたいと思っています。また、近現代の妙壽寺と内藤家の関連ということでも大変いろいろなお話がありますので、どうぞよろしくお願いたします。

内藤氏（以下、敬称略）「こちらこそよろしくお願します。

住職 内藤家と妙壽寺ということですが、私が子供の頃にこのお寺で行事がありました。そのときは婦人会の方たちにお手伝いをいただいたていしましたが、私が強烈に覚えているのは、内藤のおばあちゃん（内藤たまさん、慎一氏の祖母）です。多分、今の若い方は分からないと思いますが、御髪が二百三高地のような。

内藤 丸いのね。笑。

住職 そです。実は、たまさんは出家され、尼になられました。宗派の記録によると、常住寺さんの近くの、常照寺に二年ほど住まれたということです。ですから、それだけ常住寺さんと妙壽寺とのご縁が深かった。

もう一つは、上野にあった大内館という旅館のことです。大内館と内藤さんが同人誌「小道の譜」で書かれている小伝馬町にあった旅人宿「糠屋」との関係です。
内藤 それは、多分こういつことだと思っています。私の祖母内藤たま（明治22年生）が育ったのは埼玉秩父の青梅から近いところで、すい田舎です。尋常小学校（当初4年制）を卒業後、多分東京で女中を務めていたかと思いますが、果たしてその祖母がなぜ旅館を始めたのかということでは、

たまという猫みたいな名前なので、祖母は子供の頃、嫌ななと思っていたら、親から「先祖のつても偉い人からいただいた由緒ある名前なんだから、そんなこと言ってもんじゃないよ」と言われた。実は（祖母の）祖母がたまと同じ名前でした。孫ですから、恐らく宿屋飯盛のことは当然知っていますね。

住職 それは知っていますね。

内藤（祖母の）祖母は江戸文政に生まれていましたから、旅館の由緒を聞き知っていたと思います。



Profile

内藤 慎一氏（ないとう・しんいち）

昭和25年（1950年）2月13日生まれ
慶應義塾大学文学部社会学科卒業。
元株式会社旭通信社（現 株式会社アサツーディ・ケイ）勤務

私は、内藤慎一さんが平成30年に書いておられるのが大変面白いと思いました。これは大河ドラマ放送の前なのに、今の「べらぼう」の構成が、政治の世界と庶民町衆の葛重（葛屋重三郎）の活動との関連が非常に面白いですね。
当時の政治、時代潮流を内藤さんはきちんと書いておられて、それが片方だけでも物足りない。片方だけでなく、最後の編集後記を読ませていただくと、先輩との出会いがあつて、その先輩が田沼意次の時代小説を執筆中だったということです。

聞き手 三吉廣明上人 園田顕教師
令和7年11月9日 於 妙壽寺鍋島客殿

住職 10歳で上京して、それから成長して、結婚される。結婚のお相手は。

内藤 お相手は、千葉原君津の方です。戸籍を調べてみると祖父とは昭和8年に離婚しているんです。祖母が初めて旅館を建てたのは大正年間です。そして大震災のときに旅館は一度焼失しました。その後再建しましたが、それも空襲で焼けてしまいました。

住職 それで、大内旅館のたまさんと常住寺さんとはどのようにつながってくるのですか。

内藤 多分昭和になってからだと思います。私が聞いているのは、私の祖父が（住職を勤めていたお寺のある）山梨から中央線で上野へ出ますが上野駅前に大内旅館があったので、そこを常宿としていた。
住職 つまり、それはもちろん森憲隆（日蓮）聖人のもう一つ前に森智孝（日要、聖人という方がいて、お父さんです。日要聖人が宗務院（当時）は宗務廳）の、我々の宗派の初代宗務總監なんです。

内藤 ああ、そうなんです。

住職 初代宗務總監で、私どもの先代、日照上人にこそは宗務行政における師匠です。ではそれは森親子でもって大内旅館を常宿としていてそこをおかみさんだったわけですね。
内藤 常宿にしていた祖父が鼻屑にしていた祖母と親しくなったと思います。

住職 分かりました。江戸時代の糠屋旅館の話になりませんが、宿屋飯盛と石川雅望（宝暦3〜天保4年）が初代として、母方ですが内藤さんは何代目になりますか。

内藤 私は7代目です。

雅望と狂歌界

住職 この「小道の譜」があまりにも面白過ぎて…。本当ですか。それはよかったです。

住職 私も狂歌についての知識はあまりないですが、改めて狂歌は、いわゆる「万葉集」から短歌の歴史が始まるわけですが、その「万葉集」とか、勅撰の国で作る「古今和歌集」が出てきて、一番メジャーなものの歌を本歌取りして、当時の世相をちよと皮肉するというか、いろいろなことを言うのが狂歌の面白いところで、それは多分江戸時代の方たちの、その当時の心のありようを気分を表現しているものなんだと。

内藤 当時ですね。
住職 これはやはりすごい先駆け的な話だなと思って。「べらぼう」では宿屋飯盛役を演じる又吉直樹（芸人・作家）が出てくるシーンです。いわゆる江戸所払いになって、葛屋に何か言っているところ、結果16年間江戸に入れないという旅立ちの姿のシーンが…。
内藤 ありましたか。（笑）そのシーンが何か私の中でオーバーラップして。最後に切腹して豆腐の角に頭をぶつけて死んでしまふ、恋川春町（江戸中期の戯作者・浮世絵師）です。
内藤 狂名は小石川春町に由来しています。
住職 シーンの中で、飲めや歌えとお酒を飲んで踊る、あいう気分は分かる感じがするなと思ったりもします。彼らが「ふんどし」というあだ名を松平定信につけてしまったあたりの中、内藤さんご自身は母方の7代前の石川雅望の生涯についてはどういう思いがありますか。
内藤 正直言って、宿屋飯盛という変な名前の狂歌とかはよく分からなかったんです。そういうものをやった人だったというくらいしか若いときは興味なかったんです。（笑）
住職 皆さんそうですよ。
内藤 私が退職したころ、たまたま「小道の譜の会」という同好会が近所にあり、講師を呼んで自分史の作り方を学ぶというところで、現在まで37年続いています。自分に大した歴史があるわけではないけど、どうやら先祖にはあるらしいと。笑）では、一度はちよと調べてみようか、そういう思いがありました。
住職 江戸博物館の図書館に行かれたと書いてありましたね。
内藤 もうあちこちこち行きましたね。どうせ書くとなると、いいかげんには書きたくないの。結局始めてから10か月かかりました。締切りが迫って、あとはえいやと書いたら何となくさっさと書けたという。
住職 タイトルにタイムスリップとありますが、正にそうですね。また、宿屋飯盛が8つ嫌いなことがあり、そのうち、お坊さん嫌いだというのがある。私は大変おもしろかったです。
内藤 斜に構えているというか。
住職 それは非常にありますね。
内藤 ものすごく感じますね、生意気なやつだになっている。（笑）
住職 やはり、町人であるけれども、武士の魂に對する町人の魂みたいなものが。
内藤 この方の父親が石川豊信といい、武士なんです。この糠屋に請われて、婿養子に入ったんです。浮世絵師でした。糠屋は、江戸の早い時期から小伝馬町に住んでいて、糠屋の糠は馬の餌その馬の餌を商っていました。物見遊山やお寺参りなどの田舎人が宿泊する旅館になりました。あの辺りの旅館は、初めは少なかったが、だんだん増えいつつ、その中でも糠屋は老舗旅館でした。



左より園田師、内藤氏、当住上人

父の豊信は養子で、多分3代目で、飯盛が4代目（？）。だから、それなりに古い旅館で格式が高かったのは、享保年間に8代の吉宗が殖産興業で、小石川で朝鮮人参を育てていましたが、高価なものなので、何とか本格的に育ててみたいと京都の本草学者を呼んで話を聞こうと糠屋に泊めさせたということです。將軍が宿泊先にするぐらいなので、やはりそれなりの旅館だったと思います。
この後、雅望が旅に出ます。その後のことは後編で書く予定です。

身に覚えのない罪で江戸払い

住職 それは江戸払いになってからですか。

内藤 そです。雅望はどういう人だったか。そういう意味で言うと、4代目の老舗の宿屋のお坊ちゃんという感じで、しかも、日本橋のちやきやき、の江戸っ子、割と裕福な町人だから、当然、寺小屋じゃないけど、漢籍の先生とか国学の先生とかに教わり、子供のときから教養を身につけてね。

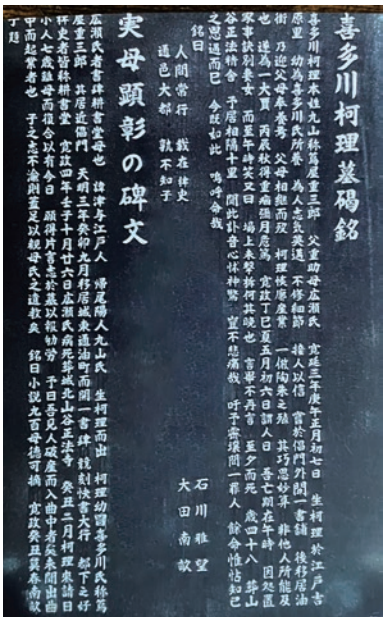
園田 資料も残っているのですか。
内藤 はい、同人誌にも書きましたが、どんな男だったかというのは、新宿のたばこ屋のおやじだった平秩東作という狂歌師が雅望についていうやつだったと書いています。要約すると「自家で好き嫌いのはっきりした妥協を許さない性格であつたが、気が合えば深く付き合う人であつたではないか、ということ」です。

住職 学問が好きだが、貧乏はまっぴら御免。和歌を詠むのは好きだが、身分のある人の追従は疎ましい。わびざびの俳諧を詠む柄ではない。本物の古典しか興味がない。狂歌は2番目に好き。では、1番目は。
内藤 国学です。あの頃、江戸時代は鎖国していたので、漢学が主流です。と教養でやっていたけれど、国学というものにみんなが興味を持ち出して、例の有名な…。
住職 平田篤胤ですか。
内藤 ちよとこの頃の人です。本居宣長の「古事記伝」がでたのが1800年頃です。だから国学を勉強するというのが結構たくさんいて、そういうのに興味があつた。雅望の後半生は「源氏物語」を読むための辞典を作る。「雅言集覧」（がげんしゅらん）という古語辞典です。宿屋も召し上げられてしまい、江戸払いになります。多分いろいろ援助する人がいたんでしょうね。
住職 江戸払いになります。そのとき、旅館はやはり取られたのですか。葛屋は半分だったけれど、全部取られちゃった。葛屋は半分だったけど、身半減。



宿屋飯盛の肖像と狂歌（『吾妻曲狂歌文庫』より）

同人誌『小道の譜』に投稿



喜多川柯理は、雅望の友人の一人だった。葛屋重三郎の墓は浅草の日蓮宗正法寺にある。碑文が雅望と大田南畝によるものであることから、浅からぬ関係が読み取れる。

園田 では、お金も多分…。
内藤 困ったでしょうね。だから、多分葛屋も援助していただろうと思います。そうすると、何でも食べていたかという、古典の勉強をした後に、もう一回、今度はプロの狂歌師になるわけですね。16年間の江戸払い後、時代が文化になった。やととほりが冷めたところで、また活動し出す。それで、五例という自分たちのグループをつくって対抗する。今度はプロフェッショナルになつて、さすがに宿屋は再興しなかったわけですが、それでも、大変面白かったのは、政治のこともいろいろ追って、時代の潮流として、どういうときに宿屋飯盛がいたということが明らかにあります。もう一つは、裁判です。裁判のあり方が、言ってみれば、こういう言い方をしてはいけないけど、独裁国で一方的に判断されてはいくれないものではないですか、江戸時代は。いろいろ「宿屋飯盛」と引いてみると、やはり冤罪という、本来は金品、賄賂なっていることはいくらうし、大それた土壌がない部分でその嫌疑でもって結局やられてしまったという。結論としては、狂歌師としての当時の風潮の中で風紀取締りのような部分で、制裁されたと思います。

内藤 さんのお話を聞いてみると、宿屋飯盛の人生というものは本当にドラマだと思えますね、人生の有為転変がまさにあるわけですね。かといって裁判になり、所払いになつてからも、国学のほうに行ったり、あるいは狂歌で自分と対峙するところもちゃんと闘ったり、何かめげないですね。
内藤 ああ、それはもうタフです。

先祖と過去帳の大切さとは

住職 いろいろなことをたくさんお伺いしました。が、「自身の先祖を辿る」というのは、私は非常にに感謝しました。私は若い頃から歴史が好きでしたが、でも、若い頃はなかなかそこには目が行かないわけ。だんだん自分が取つてきた…。
内藤 お墓が近づいてきた。（笑）
住職 ちよとこの頃の人です。本居宣長の「古事記伝」がでたのが1800年頃です。だから国学を勉強するというのが結構たくさんいて、そういうのに興味があつた。雅望の後半生は「源氏物語」を読むための辞典を作る。「雅言集覧」（がげんしゅらん）という古語辞典です。宿屋も召し上げられてしまい、江戸払いになります。多分いろいろ援助する人がいたんでしょうね。
住職 江戸払いになります。そのとき、旅館はやはり取られたのですか。葛屋は半分だったけれど、全部取られちゃった。葛屋は半分だったけど、身半減。

内藤 振り返るときに、NHKの先祖を辿る「ファミリーヒストリー」です。今、夫婦別姓制度を賛成する人がいますが、日本の戸籍制度を壊すようなことは絶対よくないと思います。それは、先祖を迎えにくくなると思います。
住職 確かにそうですね。
内藤 そういう意味で言えば、祖先を調べるにしても、デジタル化されたので、地元の役所に頼むと全部調べてくれますよ。
住職 私と園田師、職員と話すのは、今、お墓を閉じようとか、皆さんそういう発想になるけれども、今おつたように、やはり、今なぜ自分がここにいるのかということを考えることの必要性。そうすると、まあ、無理にありがたいと思つてくださいますし上げませんが、今自分がここにいる必然性ということが、やはり単なる偶然で

はなくて、いろいろな方たちの積み重ねの上に自分があるんだということをちよと分かっていた方がいいですね。
内藤 そです。逆に言うと、僕なんか調べて1つ思ったのは、やっぱり立派な祖先がいるということを知ると、もっと自分を大事にしなきゃいけないという、何か自分の存在理由みたいな、そういうものがあるんじゃないかと。
住職 今風に言うと、DNAとか遺伝子、そういう部分で影響を受けていないわけではないわけですからね。
内藤 本当にそうですね。

天明狂歌はなぜブレイクしたか

内藤 1つだけ言い忘れていましたが、狂歌は鎌倉時代からの連歌から始まっているんです。三吉今和歌集」にも、和歌というのは季語があるのが決まりです。番外として、面白い歌という、割と自由に歌う歌というのがあり、それが連歌です。と進んでいきました。昔の人は、上の句を詠むと、下の句をつなげて遊んでいたんじゃないですか。
住職 付くみたいなことですね。
内藤 最終的に江戸に来る前に大阪でも流行っていたらいいけど、結局、深みがないため廃れていった。もともと始めたのは武士と町人が混じって詠んでいました。それが江戸に来て、爆発的に流行りました。この頃、流行った訳は何なんだろうと思つたときに、たまちよと出ていたの、あつ、そつだ。いわゆる狂歌も文学の1つとしたら、この狂歌というのはスポーツ感覚、ゲーム感覚、これで彼らは遊んでいたのう。東と西に分かれて、それぞれ対決する人を決めて、お題を出す。当然時間の制限もあるでしょうからばつと出してきて、選者がどっちが良かったかを選ぶ。反射神経テストのようなものですね。
住職 モチベーションとスピード。
内藤 そういう遊びにしていた、そのゲーム性とかスポーツ感覚みたいなもので爆発的に流行ったようですね。だから、雅望は深みとかいうより詠み捨てだ。あんまり深く考えてやるといふもの、そういう和歌とか、それこそ、わびざびの松尾芭蕉の俳句と違って、同じ文字を使って遊ぶにしても、もっと大衆的というものが天明狂歌だといふふうには宿屋飯盛という人は思つた。それが、この人の有名な狂歌に「歌よみは下手こそよけれ あめつちの動き出したまるものかは」というのがある。これは「古今和歌集」の序と同じ「あめつちが動き出した」ということが書いてあつて、そんな高尚なものじゃないと。それをうまく使つて…。

住職 ちよと皮肉って、本歌取りみたいなこと。今だに何だろう。eスポーツとかがありますね。
内藤 そんな感覚でやっていたのかなと。
住職 でも、古典を皮肉って書いたから、ベシックがないと出来ないわけですね。
内藤 それがないとできないですね。
住職 けれど、1つの人間の中にそういう部分とものが併存しているというのが誠に面白い。
内藤 そです。この人はそこにこだわっているんですね。
住職 すごくことです。
内藤 70歳で、最後、だんだん有名になり、プロになつてそれを越えてきた頃に、五摂家の二条家がいよいよ宗匠の位を授けるというの飯盛のところに来るんです。それも70を超えて、もう死ぬ間際、それを受けるんです。
住職 そです。（笑）
内藤 弟で山田早苗という人がいて、遠い親戚らしいんですけど、ものすごく宿屋飯盛のそういう精神を慕つて、「師匠、それはおかしいだろう」と。あなた、そういうのを、べらぼうめとやる人だったんじゃないの？と。
住職 なるほど。（笑）
内藤 というようなこと。

住職 最後は「べらぼう」で締め切った感じがします。長時間にわたって楽しいお話をありがとうございました。（了）